

2 大阪市教育局委員会主催

2-1 「小学校区教育協議会－はぐくみネット－」事業・学校元気アップ地域本部事業 合同実践報告会

日程：平成 30 年 12 月 3 日（月）14：00～16：30

会場：大阪市立咲くやこの花中学校・高等学校 多目的室

テーマ：「地域と学校のいい関係を考える」

内容：基調講演／村田 和子（和歌山大学教授）

「子どもが育つ地域社会の創造」

事例報告／諏訪小学校区はぐくみネット（城東区）

「大阪のおばちゃん VS 諏訪っ子の水曜日 2 時半@算数教室」

新豊崎中学校区学校元気アップ地域本部（北区）

「そなえだけでは憂いあり

～防災学習と攻犯パレードを通して中学生と地域の交流～」

パネルディスカッション

大阪市では、小学校区における「小学校区教育協議会－はぐくみネット－」事業のほか、中学校区においても学校・家庭・地域の組織的な連携のもと、地域社会全体で子どもを育てる「学校元気アップ地域本部事業」を実施しています。今後の両事業の推進に向け、事業関係者及び事業に関心のある方が、事例などを通して両事業の成果と課題を共有し、教育コミュニティづくりと学校教育支援活動についてともに考え交流する機会として開催しました。

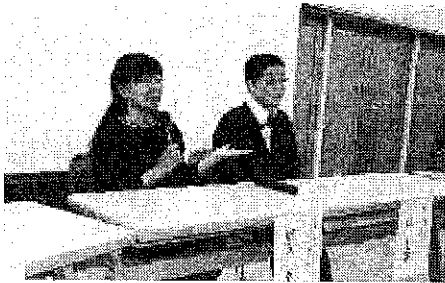
【基調講演】

「地域と学校のいい関係を考える」をテーマに、和歌山大学 村田和子教授よりご講演いただきました。①学校・地域連携活動事業が求められる社会背景を学んでみよう②学校・家庭・地域の連携や地域とともに歩む学校・地域づくり事例を通してコーディネーター（つなぎ、調整、橋渡し役）について考えよう、の 2 点を講演の柱として、コミュニケーション不全と言われる時代の状況や子どもの育ちの状況、子育ての孤立化、子どもの貧困率などの社会問題を具体的なデータを示して解説されました。後半は「これからの学校を考える」として、「きのくに共育コミュニティ」の取組事例を紹介され、地域で子どもを育てる視座や学校と地域をつなぐコーディネーターの役割、学校が地域と連携・融合するための方策、学校支援の活動と地域を結び付けていく方策などについて、わかりやすく示唆に富んだご講演をいただきました。



【事例報告 はぐくみネット】

諏訪小学校区はぐくみネット（城東区）は、図書館ボランティアや家庭科の授業支援などに取り組みましたが、学力に課題があるが塾にも通っておらず支援学級にも在籍していない児童の学

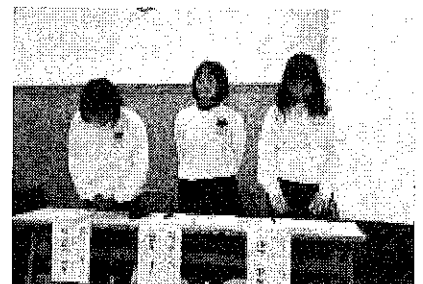


習支援を、という校長先生の依頼を受けて、平成 27 年度から新たに放課後算数教室を開設されました。担任の先生の指名による 5 年生 10 名ほどで、「習い事などがあれば無理せずに」と保護者の了解も取り付けました。最初はこわごわやってきた子どもたちも「なんだ絵本のおばちゃんか」とそれまでの学校支援で親しみがあったのか安心した様子でした。

10 名といってもプリントで学習できる子どももいれば、指を使って計算する子どももいるなど学力はバラバラでした。「この子たちをこのまま社会に出してはいけない」という思いで、5 名のボランティアで 2 学期の運動会明けから開始されました。1 年生の内容から始まる計算プリントでも、間違いは訂正させて必ず 100 点で返すように工夫され、子どもたちも、成功体験を重ねることで自信とやる気が身についてきました。翌 28 年度の 1 学期は進級した 6 年生のみでしたが、早くからの学習支援が有効であることから、2 学期以降は 3～6 年に拡大し 30 名を超える教室になり、ボランティアも 10 名に増員されました。6 年生のうちの 2 名はほぼ学年相当に追いつき、こうした活動が認められて城東区長からも表彰されました。ただ人数を拡大すると指導が行き届かないという反省もあり、29 年度は 4～6 年生に絞ってスタートしました。6 年生は 2 学期で終了し、4 年生に力を入れることになりました。30 年度は 3～5 年生を対象を変えてスタート。数の概念が理解できていない子どもが多いことから、10 や 5 のかたまりを理解することから始め、積み木なども活用されました。子どもたちは、算数教室への参加当初は「なんでこんなこと、やらないといけないの？」という様子でしたが、全員が 1 + 1 から始めて徐々にステップアップし、やり直しながら 100 点をとれることで、勉強が分かり始めて、楽しいという気持ちに変わっていったのでしょう。学力だけでなく自己肯定感も向上し、子ども自身が変容していく様子を目の当たりにすることができました、と報告がありました。

【事例報告 学校元気アップ地域本部】

3 年前、新豊崎中学校区学校元気アップ地域本部が活動を始めた年には、まず着付けの師範免許を持つコーディネーターが中心となって浴衣着付け教室を実施されました。地域の女性会より練習用の浴衣や帯の準備や指導の手助けなどの協力を受け、今年の夏は北区の美容専門学校の学生も参加協力してヘアアレンジなどを生徒に指導しました。また北区役所



の紹介でコンピュータ専門学校や美容専門学校の学生の協力を得て、パソコン教室や特殊メイク体験会を実施し好評を得ました。さらに職場体験学習の受入れ事業所探しが大変だと聞き、地元で詳しいコーディネーターの強みで事業所を紹介したという報告がありました。

防災訓練ではコーディネーターと学校・地域がしっかり連携し、区役所の協力も得て 28 年度末に実施されました。1 年生は「防災の観点から自分たちの街の様子を知る」という内容で、地域の方と実地調査をして地域防災マップを完成させました。今年度の 1 年生はこのマップをもとに再度調査をして、新しい情報を前のマップに上書き修正していくことになっています。

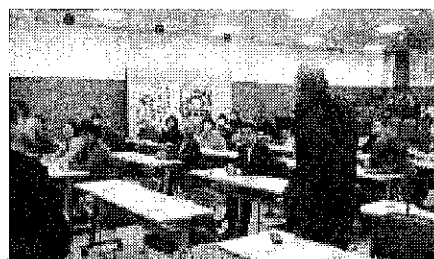
2 年生は災害対策の学習で、学校の備蓄倉庫の場所確認から始め、物品を運び出し、物品の使い方を区役所の防災担当者から学びました。運び出したアルファ化米は賞味期限が迫ってしま

たが、地元のお菓子メーカーの協力で、なじみのスナック菓子を足した防災食のおにぎりとみそ汁を作りました。3学期には「災害時、私たちにできること」をテーマに、災害がおきた時に校舎内にどのような避難場所を開設すればよいのかを考えました。病人・高齢者・けが人など様々な人が来たときにどこへ案内するのか、男女の部屋は分けるのかなど、元気アップのメンバーも地域の一員として助言し、実際に避難所を開設する訓練では大人顔負けの動きができました。

防犯活動については、防犯ならぬ「攻犯」パレードの紹介でした。攻犯パレードとは、「犯罪を許さない地域づくり」「私たちの地域では絶対に犯罪を許さない」という強い思いを込めて、4月の土曜日に大阪府警音楽隊の先導のもと、地域の方々や校区の小学生が豊仁小学校から新豊崎中学校まで歩くパレードのことで、当日は中学生も多数参加し、地域一体のパレードになりました。

【パネルディスカッション】

事例報告について、村田先生から「無理をしない」「楽しく取り組む」ということが共通している、という講評がありました。その後「学校のニーズに応じる」とことについて、参加者と村田先生や事例報告者がはぐくみネットや学校元気アップ事業に関わるようになった経緯などを話しながら、様々に意見を交わしました。村田先生からは「学校のニーズ」を全部受け止めなくても良い、という考え方もあることを補足されました。事例報告者だけでなく各校区の参加者からもそれぞれ創意工夫を凝らして活動されている様子や、現場の息づかいが伝わって、今後の活動を考えていく上で有意義な報告会となりました。



【参加された方々の感想】 アンケートより抜粋

- ・諏訪小学校の「算数教室」の取組に感銘を受けました。
- ・村田先生と事例報告の方のパネルディスカッションが楽しかったです。
- ・防災のことを学校ですということは考えたことがなかったので、すばらしいとびっくりしました。
- ・諏訪小学校の算数教室で自己肯定感を子どもが持つことができた点。新豊崎中学校は地域の企業や専門学校も協力してもらっている点。(たいへんよかった)
- ・現状での本業の片手間での地域コーディネーターの活動の限界を意識してしまいました。生徒のための活動には時間が必要であり、この不十分な状況の改善を検討する必要性を強く感じました。
- ・「無理なく楽しく」その通りだと思いました。
- ・身近なお話を聞けるので参考になり、自分たちの力でできる事を考えていこうと思いました。
- ・ゆかた着付け・ヘアアレンジ教室・メイク教室など、親も出来ないことで、とてもいい体験教室だと思います。
- ・企業や役所とコラボする方法を知りたい。
- ・元気アップがどこまで地域に入りこんでいけるか。防犯、防災に関しては地域の協力なくして活動できないことだと思いました。PTA 役員をしていた頃はやったことがありましたが…。個人的には地活協の方にも関わっているので活用できたらと思いました。
- ・どこまで関わって良いのかと躊躇する部分もあったのですが、目の覚めるような思いです。